

中学受験の四谷大塚
6/7「全国統一小学生テスト」
全国 1,952 会場で、62,864 人が競争しました。
学力の地域格差
学年が上がるにつれ拡大



■昨年同期比 111%、62,864 名が受験■

去る 2009 年 6 月 7 日(日)、小学 3・4・5 年生を対象に、4 回目の全国統一小学生テストを開催いたしました。全国 47 都道府県 1,952 会場(受験者数 0 名の会場は除く)で実施し、史上最高の受験者数となった昨年同時期より 1 割強の増員となる 62,864 名の小学生が受験しました。学年別の内訳は、小3が 14,718 名、小4が 21,824 名、小5が 26,322 名。最も受験生が多かった都道府県は、全学年とも東京都で合計で 15,229 名でした。

「全国統一小学生テスト」は中学受験の四谷大塚が、2007 年 11 月「さあ、競争だ。」というキャッチコピーを掲げ、初めて開催した民間による小学生のための全国的な学力テストです。子どもたちが互いに競い合うことで、子供の「転んでも起きあがる精神」を鍛え、逞しく生き抜く力を育成するために実施しています。受験者にお渡しする成績表には、全国順位と都道府県順位を記載し、自分がどのような位置にいるのかを客観的に把握できるものとなっています。

試験会場は、四谷大塚直営各校舎・四谷大塚NET加盟塾・四谷大塚YTネット提携塾・公認会場で、全国 47 都道府県すべてを網羅し実施しました。

次回は、11 月 3 日(火・祝)に実施する予定です。

■6/28(日)史上初となる全国統一小学生テスト決勝大会を実施■

全国統一小学生テストは、競争を通して、たくさんのお子様たちに勉強を始めるきっかけを作ってもらおうと、全国で広く実施しております。と同時に、「でてこい、未来のリーダーたち。」のスローガンのもとに、将来の日本そして世界を背負って立つ未来のリーダーにふさわしい成績優秀者たちが、全国各地から続々と集まってくるようになっております。

そこで今回より、全国トップ生たちがより手ごたえのある問題に挑戦し、本当の全国トップ生を決する「全国統一小学生テスト 決勝大会」を6/28(日)開催することにいたしました。

「全国統一小学生テスト 決勝大会」は、全国統一小学生テスト終了後、各学年の全科目受験者の成績上位者 50名を全国 6 箇所を設置した決勝会場へ招集し、決勝大会のために特別に作成したテスト問題で実施します。まさに、未来のリーダーによる決戦大会です。

なお、決勝大会進出者は下記ウェブサイトでご紹介しております。

また、決勝戦の結果は、7/1(水)に同ウェブサイトにおいて発表します。

<http://www.yotsuyaotsuka.com/toitsutest/final/final.php>

■6/7「全国統一小学生テスト」の様子■

四谷大塚お茶の水校舎では、1会場での受験者として最大となる約 1,000 名の小学生が受験。



①続々と校舎に集まる受験生とその保護者の方々。(上記左)

②4 回目となる今回は、NHK「首都圏ネットワーク」の取材が入り、後日その盛況振りが報道されました。(上記右)



③受験番号、氏名等をマークシート用紙に書き込む生徒の様子。(上記左)

④試験開始と同時に開催された保護者説明会の模様。最新のデータに基づいた、中学受験の実状に深く頷きながら聞き入る様子。(上記右)

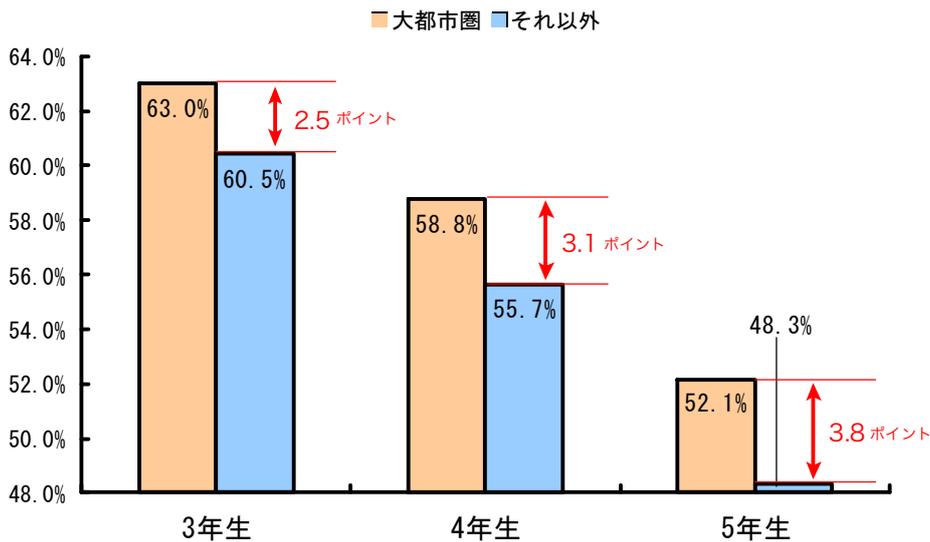
■ 学力の地域格差、学年が上がるにつれ拡大。■

① 大都市圏と地方の格差

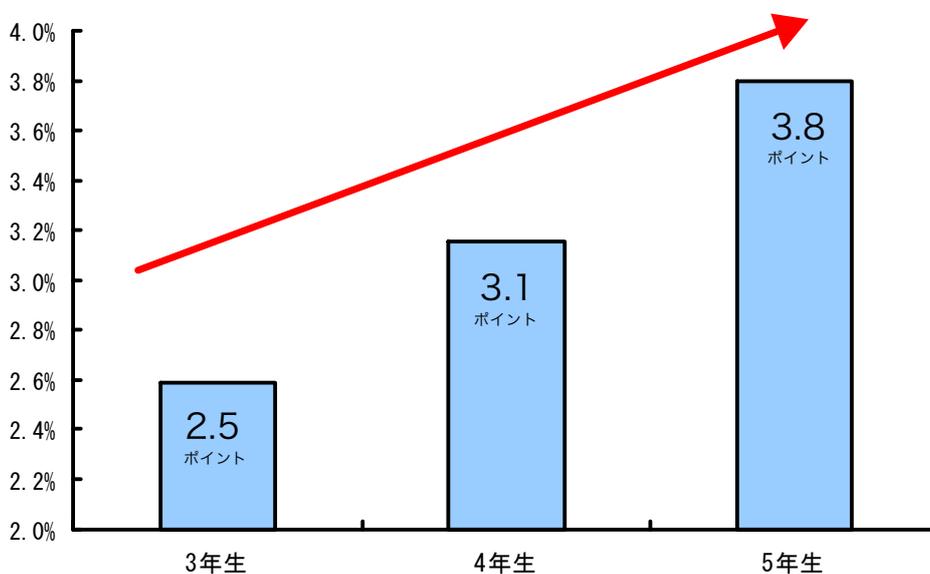
成績分析の結果、これまでと同様、大都市圏と地方で学力の地域格差が認められました。下のグラフは、大都市圏とそれ以外の地方との比較です。3年生 300点満点(2教科)、4・5年生 500点満点(4教科)の得点率の平均を百分率で表したものです。

学年が進むにつれて得点率の差異が広がることが分かります。学力の地域格差の現状を示唆する結果となりました。

学年	大都市圏	それ以外	格差
3年生	63.0%	60.5%	2.5ポイント
4年生	58.8%	55.7%	3.1ポイント
5年生	52.1%	48.3%	3.8ポイント



大都市圏と地方の得点率の差



※ ここでいう「大都市圏」は、当社独自の判断で、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・愛知県・大阪府・兵庫県・京都府・奈良県を指します。

② 地域別成績(4・5年生4教科合計、3年生2教科合計)

すべての学年で、関東のみが全国平均以上、その他の地域は全て全国平均以下となりました。

地域別に各学年の合計平均点を比較

地域	3年生		4年生		5年生	
	平均点	得点率	平均点	得点率	平均点	得点率
北海道・東北	176.3	58.8%	276.1	55.2%	236.4	47.3%
関東	190.8	63.6%	297.3	59.5%	264.5	52.9%
信越・北陸・東海	183.2	61.1%	282.2	56.4%	246.2	49.2%
関西	182.5	60.8%	281.1	56.2%	242.1	48.4%
中国・四国	183.7	61.2%	281.9	56.4%	246.5	49.3%
九州・沖縄	182.6	60.9%	275.9	55.2%	242.6	48.5%
全国平均	186.6	62.2%	289.5	57.9%	254.5	50.9%

3年:算国各150点

4年:算国各150点 理社各100点 500点

5年:算国各150点 理社各100点 500点

※その他の分析結果の詳細は www.yotsuyaotsuka.com にて公開を予定しています。

■教科別分析■

6/7 に実施した全国統一小学生テストの結果から学年別・教科別に、その特徴や傾向についての分析を行いました。

(本リリースにおいては算数の一部のみ掲載しています。教科別分析の詳細はウェブサイトをご覧ください。)

①3年算数

(5) なお子さんは、1本60円のえんぴつを3本と、1さつ150円のノートを買いました。ぜんぶで何円になりましたか。次から1つ選びなさい。

- ① 180円 ② 210円 ③ 330円
 ④ 360円 ⑤ 430円

正解は③で、正答率は82.1%です。しかし、13.7%の人が②と答えています。これは、
 $60 + 150 = 210$ (円)
 と計算した人が多くいたことが考えられます。

⇒現状の小学校の教科書では、単元ごとの復習をするための問題が中心となるため、複数の単元内容を融合した問題はあまり多くありません。そのため、本題のように、それほど難易度が高くない問題でも、「かけ算」と「たし算」の両方を利用する問題では、目に入った金額を単純に足して解答してしまう子供も多く、20%近くが正解を導き出せないという状況となっています。現在の小学生は、その保護者世代と比べると、主要4科の年間学習コマ数は最大で20%以上減っており、圧倒的に「問題を解く量」も減っています。このような問題に躓く生徒は、ドリル練習などにより、問題量を補ってあげることが大切です。

②4 年算数

④ 1から6までの数字を書いたカードが1まいずつあります。この6まいのカードを、たつや君、のり子さん、あいさんの3人で2まいずつ分けました。このとき、たつや君が持っている2まいのカードの数の合計は6、のりさんが持っている2まいのカードの数の合計は7になりました。これについて、次の問いに答えなさい。

(1) あいさんが持っている2まいのカードの数の合計はいくつですか。次から1つ選びなさい。

- ① 3 ② 4 ③ 5 ④ 6 ⑤ 7 ⑥ 8

(2) のりさんの持っているカードの1まいをたつや君にあげ、もう1まいをあいさんにあげたところ、あいさんの持っているカードの数の合計が、たつや君の持っているカードの数の合計の2倍になりました。たつや君がはじめに持っていたカードの数字は何ですか。次から2つ選びなさい。

- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5 ⑥ 6

(1)の正解は⑥で、正答率は63.8%、

(2)の正解は②と④で、正答率は31.1%でした。

(2)は、考えられる組み合わせを書き出し、条件に合うものを探す問題です。こうした論理的思考力を問う問題は、正答率が低くなります。

⇒一見難しそうな問題ですが、条件をまとめることさえできれば、上手に解きほぐすことができます。算数・数学教育にとってのみならず、論理的思考力は、あらゆる科目を学んでいく上で必要な力となります。小学教育で、この思考力を伸ばすためには、このような条件を整理して解く問題を多く経験することで鍛えられます。中学入試の問題には、こうした能力を見るために出題される問題も多いため、入試問題を解くための訓練は、論理的思考力を鍛えるよい機会となります。

③5 年算数

⑤ 長さ7cmの赤いテープが4本と青いテープが3本あります。これらのテープをのりをつけてつないで1本の長いテープを作ります。のりしろの長さは、同じ色のテープをつなぐときは2cm、ちがう色のテープをつなぐときは3cmです。これについて、次の問いに答えなさい。

(1) 7本のテープを、左から赤、赤、赤、青、青、赤、青の順につなぐとき、全体のテープの長さはアイcmになります。ア、イにあてはまる数を、次から1つずつ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| ア | ① 1 | ② 2 | ③ 3 | ④ 4 | ⑤ 5 |
| | ⑥ 6 | ⑦ 7 | ⑧ 8 | ⑨ 9 | ⑩ 0 |
| イ | ① 1 | ② 2 | ③ 3 | ④ 4 | ⑤ 5 |
| | ⑥ 6 | ⑦ 7 | ⑧ 8 | ⑨ 9 | ⑩ 0 |

(2) 全体のテープの長さが32cmになるようなつなぎ方は、全部で何通りありますか。次から1つ選びなさい。ただし、「赤、青、赤、赤、青、赤、青」と、これを逆にならべた「青、赤、青、赤、赤、青、赤」は別のつなぎ方とします。

- ① 3通り ② 4通り ③ 5通り ④ 6通り ⑤ 7通り
⑥ 8通り ⑦ 9通り ⑧ 10通り ⑨ 11通り ⑩ 12通り

(1)の正解は34cm、正答率は22.1%、

(2)の正解は④、正答率は13.8%でした。

(1)は植木算の考え方をを使う問題で、(2)は条件から組み合わせを調べる問題です。4年生同様、「調べる」要素が入り、「論理的思考力」を問う問題は、5年生においても正答率が低くなります。

⇒植木算と条件を整理しながら調べて解く問題で、正解に至るまでに何段階ものハードルが設けられています。このような問題は中・上位レベルの中学入試問題ではよく見られます。上記4年算数の問題でも申し上げた通り、こうした問題が解けるようになるためには、論理的思考力の訓練が大切です。また、本題は、テープを並べたときの状態を頭の中で想像できるかどうか、つまり、「空間を認知する能力」も重要な要素となります。この空間認知能力は、文字をきちんと書いたり、絵を描くことによっても鍛えられます。普段から問題を解くときには、問題の示す状況を絵や図で書くことは、こうした能力を鍛えるよい機会となります。

※その他の分析結果の詳細は www.yotsuyaotsuka.com にて公開を予定しています。

■株式会社ナガセについて■

1976年創立。大学受験向け予備校の東進ハイスクール(首都圏を中心に86の直営校)や、全国47都道府県に800校舎を配す東進衛星予備校(フランチャイズ契約)を展開。質の高い授業と独自の学習システムによって、東大現役合格445名など高い合格実績(2009年実績)を実現し、現在では約10万人の現役高校生が通う、日本最大規模の予備校となっています。また、2006年10月から四谷大塚(中学受験)、2008年2月よりイトマンスイミングスクールをグループ化するほか、大学生・社会人を対象に東進ビジネススクールを開講。「社会に貢献する人財を育てる」を教育目標とした小中高大一貫教育サービスを展開しています。

■四谷大塚について■

1954年創立。首都圏を中心に、多数の合格者を有名中学に送り出してきた学習塾。中学受験最強の教科書“予習シリーズ”、全国最大となる2万人を超える受験生が競う“合不合判定テスト”、首都圏の直営17校舎での質の高い“レベル別指導”、そして豊富な“教育情報”を提供してきました。また、首都圏で定評のあった「四谷大塚」のノウハウを活かして、日本全国の有力塾や東進衛星予備校の加盟校との新ネットワーク「四谷大塚NET」のサービスを、2008年2月から開始しています。

<全国統一小学生テスト結果に関するお問い合わせ先>

株式会社ナガセ 広報部:市村、加藤

〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町1-29-2

TEL:0422-44-9001 FAX:0422-44-9129